

調査研究課題名 「高度情報化・グローバル化時代のスーパーキャリアバス」

代表者名 「伊東 誠（東京工業大学 名誉教授）」

中核機関名 「社団法人 日本機械学会」

調査研究の目標・概要

1. 目的

技術者が「個」として「国際的に通用する資格を有し、国際的流動性のもとで活躍する時代」、しかも技術的、経済的、並びに社会的にグローバル化が進む環境下で重要なこと、それは「本質的に国際レベルで評価される戦略的視野を有し、戦術面でも将来を嘱望される、優れた人材を一定数確保すること」であろう。そこでそのような超技術者を計画的に養成できるグローバル化時代に対応したスーパーキャリアバスの構築をする。

2. 内容

世界各国に存在する指導的な技術者に情報通信技術の利点を駆使して師事することを主眼とした、「Virtual & Real 閃き道場」を開設する。要するに、若い世代を対象として、「人と人の長年の付き合いで醸成される、相手の能力、人格等を知悉した信頼関係」を基盤とする「超高品质の人的・情報ネットワーク構築」の支援策である。

3. 俯瞰的・融合的視点

人材養成を主眼とする調査研究であるので、そこには当然専門分野横断的な幅広い視点が必要、不可欠である。又、ひとことでグローバル化・高度情報化時代に対応したキャリアバスと称しても、そこには、目的で述べるような地域特化の視点が欠かせない。即ち、「文化・風土的因子にかかる学術領域」、例えば、社会科学の視点を組み込む必要性が高い。と考えられる。

4. 一般からの意見の反映方法

日本機械学会では、法律と工学を融合させるべく「法工学」の領域を創出中であり、このような場合には「公開座談会」を開催しているので、一般からの意見は、次のような形で調査研究に反映させる。

- (ア) 垂下の各支部を拠点とした「公開座談会」の開催による意見交換。
- (イ) 学会の広報・情報部会の機能を活かした、ホームページによる討論。
- (ウ) 推進委員会の助言による諸活動。

調査研究により期待される提言

我が国に適するスーパーキャリアバスの構築並びに波及効果の評価方法

○調査研究課題名 「高度情報化・グローバル化時代のスーパーキャリアバス」
○代表者名 「伊東 誠（東京工業大学名誉教授）」
○中核機関名 「社団法人 日本機械学会」

平成
一
四
年
度

1. 國際社會で構築されている
スーパーキャリアバスの比
較研究調査
・担当機関：社団法人 日本
機械学会
・担当委員：藤井 進（神戸
大）

2. スーパーキャリアバス構築上の問題
点を把握するための事例研究調査
(1) 次世代塑性加工技術の体系化道
場
道場主：木内学（東大名誉教授）
(2) 個体差（老人向きと若年向き）対
応スポーツ機器の生産技術道場
道場主：Wulf 教授（ジーゲン大）
Baier 教授（ミュンヘン
工科大）
(3) 先進形数値制御技術の遠隔開発
体制道場
道場主：山崎和雄（UC Davis 大）
・担当機関：社団法人 日本機械学会

平成
一
五
年
度

3. スーパーキャリアバスの構築並びに検証用道場の試行開設
・担当機関：社団法人 日本機械学会
・担当委員：伊東 誠（東京工業大学 名誉教授）

期待される提言

スーパーキャリアバスの構築に係わり、政府が行うべき諸施策に関する提言をする。特に、「我が国に適するスーパーキャリアバスの構築ならび波及効果の評価方法」について取りまとめる。